

# なごやぬいぐるみ病院（学童）活動報告書

文責 名古屋市立大学医学部 3年 永田浩貴

## 概要

実施日時：平成 23 年 3 月 17 日 16:30~17:30

実施場所：学童保育所ポピンズアフタースクール 愛知県名古屋市

対象：小学生 13 人 1 年生 4 人、2 年生 5 人、3 年生 4 人

学生参加者：17 名（4 年 1 人、3 年 4 人、2 年 7 人、1 年 5 人）

## 当日の流れ

16:30~16:35	（着替え・病院のセッティング等を学生が行うため、学童は待機）
16:35~17:25	お医者さん体験、保健教育実施 児童を学年ごとに 3 つに分け、15 分ずつでお医者さん体験、保健教育①、②の 3 つを周ってもらった。
17:25~17:30	あいさつ、復習+手の空いている学生で片づけ

今回は、子供にお医者さん役をやってもらうお医者さん体験と、花粉症についての保健教育 2 つを行った。

## お医者さん体験の内容

前回、学童でぬいぐるみ病院を行った際に、「もっと高度なことをしてほしい」という意見が多くあったため、今回は児童にお医者さん役をしてもらい、学生が看護師、患者役をするお医者さん体験を行った。児童にはフローチャートを見ながら、看護師の補助のもとで患者の診察を行ってもらい、児童がカルテに記入していくという形式で行った。

## 保健教育の内容

今回、以下のテーマについて 2 つの保健教育を実施した。

### 花粉症について（①メカニズム、②予防、対処法）

<テーマを選んだ背景>

- ① 花粉症はタイムリーな話題であるし、また保育園に比べて深い内容までできるのではないかと考えて、少々高度な内容であるが花粉症になるメカニズムやアレルギー反応について説明することにした。
- ② 春になり、花粉症の症状が強くなる季節になった。現在では日本の約 4 分の 1 の人

が花粉症だと言われているが、子供の花粉症も年々増え続けている。そこで今回の保健教育を通して、児童に花粉症とは何かを知ってもらい、花粉症になる前の予防や発症後の対策を日々心がけてもらえたらと思い、このテーマを選んだ。

#### <方法>

- ① 花粉、マクロファージ、肥満細胞の模型と人の顔や細胞内のイラストを書いた模造紙を使った。まず、花粉症を知っているか園児に聞き、反応をみた。そして花粉とはどのようなものなのかを説明し、花粉が粘膜から体内に入っていくことを伝えた。その際、粘膜とはどのようなものなのかも説明した。

そして花粉が体内に入ってくると血液内を巡回しているマクロファージ君が花粉を見つけて捕まえ、肥満細胞君に応援要請をする。肥満細胞君は花粉を悪い奴だと判断する。マクロファージ君は花粉を指名手配し、次に花粉が入ってきたときはやっつけてほしいと肥満細胞君にお願いする。

そして再び花粉が体内に侵入。すると肥満細胞君がやってきて、花粉をやっつけるために自分のヒスタミンを呼ぶ。ヒスタミンは花粉を体外へ排出させるために涙スイッチと鼻水スイッチを押しに行く。そうすると鼻水や涙が出て花粉が外へ出ていく。

しかし、大量の花粉が入ってくると肥満細胞君ががんばりすぎてしまい、スイッチがたくさん押され、大量の鼻水、涙が出てアレルギーとなる。こうして花粉症が引き起こされる。

最後に確認クイズをした。

- ② はじめに花粉が手や顔にたくさんついてしまっている男の子の絵を子供たちに見てもらい、そこから花粉を取り除くにはどうすればよいか、考えて発言してもらおう。答えがなかなか出ない場合にはヒントを与えて誘導する。答えがひとつ出る度に、絵や言葉で書かれたボードを見せて、補足の説明をする。答えが全て出たら、元気になった男の子の絵を見せ、最後に確認としてポイントのおさらいをクイズ形式で行う。

#### <その方法を選んだ理由>

- ① 模型を用いて人形劇っぽくすることによって興味をひくことができると考えたため。また、小学生なのである程度集中できると考えたためナレーションによる説明も加えた。
- ② 花粉がついてしまっている男の子の絵を見せることで、例えば「目はどうかな？」などと部分ごとに花粉を除去する方法を探しやすくなると考えたから。劇や紙芝居ではなく、発言してもらおう形式にすることで、児童に参加しているという意識を持って話を聞いてもらえるので、より楽しいのではないかと考えたから。ボー

ドを使うことで、耳から入ってくる情報を同時に目で取り入れることができるので、理解を深められると考えたから。またボードに関連する絵を描くと、児童の興味を引くこともできると考えたから。最後にクイズ形式でポイントのおさらいをすることで、楽しく復習できると考えたから。

## 総括

<工夫した点>

### ・お医者さん体験

フローチャートに沿ってカルテを作成することで、子供が流れを理解しやすいようにした。子供に白衣を着てもらい、「先生」と呼ぶことでお医者さん気分をより味わってもらえるようにした。レントゲンを段ボールでつくり、子供たちに興味を持ってもらえるようにした。また、看護師役の学生が指示するのではなく、子供にできるだけ考えてもらうようにした。

児童用の簡単なアンケートを作り、子供の意見を聞きやすくした。

### ・保健教育

- ① 一人で模型三役をしなければならなかったため、変化をわかりやすくするために声を役割によって変えた。子供の目線に合わせるために座って発表をした。
- ② ・座って聞いてくれる児童と目線を合わせるために、学生も座って話をするようにした。ボードの項目ごとに関連する絵を描いて、児童の興味を引くようにした。ただ話すだけではなく手振りをつけたり、目薬をさすなどのジェスチャーをして、動きをつけた。

<参加学生の反応>

### ・お医者さん体験

みんな楽しんでできていた。ただ、準備期間のなかで練習時間をあまりとることができなかったこともあり、時間が足りなくなってしまい焦る場面もあった。

### ・保健教育

練習時間が少なかったため、少々戸惑いがあったが皆楽しんでいて。本番は、はじめは少し緊張していたが、子供たちが話を聞いてくれている様子を見て徐々に緊張がほぐれ、練習通り行うことができた。しかし予定よりも早く終わってしまった時や、児童があまり聞いてくれなかった時に、少し戸惑ってしまい、うまく対応ができなかった。

<児童の反応（よい反応が得られた点について）>

### ・お医者さん体験

レントゲンは好評で、多くの子が楽しんで触ってくれていた。また、児童用のアンケートでは多くの子が楽しかったと答えてくれていた。難易度も多くの子にとってはちょ

うど良かったと思う。他のケースもやってみたいという声も聞かれた。

・保健教育

- ① 花粉症は身近な話題であるためかこちらからの問いかけには答えてくれる子が多かった。劇は楽しんでみてくれていたようだった。「ヒーハー！」のような流行の言葉には反応がよかった。
- ② 花粉がたくさんついてしまっている男の子の絵に注目して、気付いたことをどんどん発言してくれた。しっかり話を聞いてくれていたため、おさらいクイズで答えが予想以上に早く挙がった。

<児童の反応（よい反応が得られなかった、もしくは收拾がつかなくなった点）>

・お医者さん体験

白衣を着たがらない子もいた。その子には白衣なしでやってもらったが、こういう場合の対応も統一しておきたかった。また、カルテを書きたがらない子がいて、時間がかかってしまうこともあった。

・保健教育

- ① やはり内容が高度だったようで、理解に苦しんでいる様子だった。途中から集中力がなくなってしまった。
- ② 時間Ⅲだと集中力が切れてしまっていて、あまり話を聞いてもらえなかった。学生からパネルを取って、遊び始めてしまった。クイズが早めに終わってしまった後、退屈そうにしていた。いつも発言してくれる子がだいたい決まってしまうと、話を聞いてくれている他の児童から発言をしてももらえなかった。

<失敗した点>

・お医者さん体験

練習不足もあり、また、進行が子供に左右されやすいこともあって、時間が早く終わってしまったり、足りなくなってしまうりするケースが見られた。検査をどのくらいするかで調節するようになっていたが、調節しきれない部分もあった。

・保健教育

- ① 模型が三役あるにもかかわらず、それを一人でしなければならなかったのが大変だった。花粉症のメカニズムは小学一年生には難しかったようだったで、クイズにほとんど答えられなかった。
- ② 保健教育が予定よりも早く終わってしまった時に余った時間をうまく使えなかった。児童の質問に答えることができなかった。

<その他>

お医者さん体験について、ぬいぐるみ病院よりも子供の役割が能動的だった。どっちが

楽しいか子供たちに聞いてみると、特に女の子ではぬいぐるみを使うほうが良いという子もみられた。

### **改善点**

＜失敗した点を踏まえての改善点＞

#### ・お医者さん体験

練習時間が足りなかつたので、次回はもっと早めから準備をするようにしたい。その上で、困ったときの対応やどのくらいの時間配分で行うのが良いかなどを話し合っていく。また、子供の知識のレベルを事前にもっと知っておく。

#### ・保健教育

劇をする場合はもう少し学生の人数を増やす。子供の反応によってクイズの内容を変えるためにクイズのバリエーションを増やしてあらかじめ考えておく。

保健教育が早く終わってしまうことも考えて、もし時間が余った時のために何かを用意して、児童を退屈させないように工夫する。児童に尋ねられそうな質問を予想して事前に調べ、学生間で共有しておく。

＜アンケート結果を踏まえての改善点＞

#### ・お医者さん体験

レントゲンができなかつた子にもレントゲンを体験してもらえる機会を作る。体温計などのうちで、できなかつたことも体験したがっていたという意見もあったため、できるだけたくさんを体験させてあげる。カルテやフローチャートにイラストや補足説明をつけたりして低学年の子供にとってもわかりやすいようにする。問診の練習をできる日をもっと確保する。マニュアル無しで子供に考えさせたいという意見もあり、わかる子にはもっと考えさせてあげれる方法も見つきたい。

#### ・保健教育

講義よりもクイズなどを増やし、もっと児童が参加できるようにする。

小2や小3に対しては内容がやや易しかったと答えた学生が多かつたので、今後は学年に応じて少しずつ難易度を変えていく必要がある。

ヨーグルトが花粉症に効く理由を尋ねられた時に答えられなかつた学生がいたので、事前に勉強会を開くなどして、保健教育のテーマについて学生の理解をもう少し深め、児童の質問に自信を持って答えられるようにする。

以上